

令和5年度

学校教育目標

京都市立宕陰小中学校

◇学校教育目標

一人一人が輝き、自ら未来を創造する人の育成

〈資質・能力からの視点〉

- ・ 極小規模校という利点を生かし、個の適性に応じた学びを通した「知識・技能」の習得と活用
- ・ コミュニケーション能力の育成を通した「協働する力」「社会性」の育成

◇目指す子ども像

- ①夢や希望をもち、自ら粘り強く学習に取り組む子ども
- ②自他を大切にし、協力しながら問題を解決しようとする子ども
- ③ふるさとでの学びを通して、主体的・自律的な生き方やより良い社会を追求する子ども

◇重点目標

- ①夢や希望をもち、自ら粘り強く学習に取り組む子ども
 - ・ 学習環境作りと基本的学習規律の徹底
 - ・ 基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用に向けた授業改善
 - ・ 授業と連動した取組による家庭での自学自習習慣の確立
- ②自他を大切にし、協力しながら問題を解決しようとする子ども
 - ・ コミュニケーション能力の育成を通した、より良く生きる力の育成
 - ・ 道徳をはじめとする心をたがやす教育の充実による豊かな心の醸成
 - ・ 学級活動、児童生徒会活動、宕陰太鼓、部活動などを通した他者理解と協働する力の醸成
- ③ふるさとでの学びを通して、主体的・自律的な生き方やより良い社会を追求する子ども
 - ・ 「挨拶」「時間」「正しい言葉使い」の徹底等による規範意識の醸成
 - ・ 保健教育、食教育、安全教育のさらなる充実による健やかな体の育成
 - ・ 地域の自然や人材を活用した、人や自然を思いやる心の育成

◇目指す教職員像

職務に対する誇りと責任を自覚し、義務教育学校の一員として学校の教育方針や教育目標を十分に理解する。その上で、9年間を通して児童生徒をどのように育てていくのかということを教職員が共通理解し、カリキュラムマネジメントの視点のもと学校教育目標の達成に向け積極的に学校運営に参画していく。

◇目指す学校像

義務教育学校として、児童生徒の基礎学力の定着とその活用を図り主体性を高めることを目途として授業改善を進める。併せて、児童生徒のコミュニケーション能力を高めることで「協働する力」と「社会性」を育成し、夢や希望を実現する子どもを育てる。また、教職員の適性を生かしつつ、保護者・地域・関係機関とも連携することで、子どもの豊かな育ちと学びを実現する学校を目指す。

◇学校経営方針

- ・少人数の利点、豊かな自然環境、地域の協力等を生かして、義務教育9年間を見通した小中一貫教育のさらなる充実を図る。
- ・KYOTO×教育 DX ビジョンによる最先端の ICT 技術により、これまでの教育実践をさらに充実させ、教師・児童生徒の力を最大限に引き出すとともに、ウイズコロナ社会における新しい教育手段を模索する。
- ・小中一貫教育の実践により、社会の中で自己実現の図れる学力と社会性を育成する。
- ・児童生徒会活動や宕陰太鼓などの協働活動を通して、子ども同士のより良い人間関係の構築を図るとともに、人を思いやる心を育成する。
- ・児童養護施設と緊密に連携を図ることで、施設措置児童生徒の学力定着と社会性の育成を目指した取組を推進する。
- ・風通しのよい職場づくりを目指すとともに、教職員の健康維持のため、校務の効率化、適切な勤務時間の設定を行い、「働き方改革」をより推進する。
- ・宕陰だよりやホームページを通した広報活動を活発にすることにより、学校としての説明責任を果たす。また、自由参観や学校評価アンケートを通して、家庭・地域と連携した学校づくりを着実に推進する。